

令和3年度後期 卒業証書授与式 卒業生代表挨拶

事務部 番場 晴美

卒業式に読まれた卒業生代表挨拶をご紹介します



本日は、八洲学園大学国際高等学校、教職員の皆様をはじめ、多くの皆様のご臨席の下、コロナ禍の中、このように盛大な卒業式を開催して頂いたことを心より感謝申し上げます。

私は、バスケに力を入れるために、大分県にある全日制高校に入学しました。その後、元々英語が好きだった事もあり、今より更にバスケットと英語を学びたいと全日制高校を休学し留学する事を決意しました。留学後は、全日制高校へ戻る選択肢もありましたが、自分のやりたいことに挑戦できる場所が八洲学園大学国際高等学校であると考え転学を決意しました。



初めてのスクーリングは12月。音楽がテーマのスクーリングでした。参加前は緊張していた私でしたが、気の合う仲間も出来、楽しむことが出来ました。三線部門と共に弾いたウクレレはとても緊張しましたが、良い思い出です。そして今回が卒業へ向けての最後のスクーリング。スポーツがテーマの八洲ンピックを通して、チームで団結出来た事がとても楽しかったです。



人と人の繋がりを私は大切に考えています。この考えを持つきっかけとなったのは、アメリカ留学です。バスケットを通して、どこの国の人でも受け入れる寛大な心を持つ仲間に助けられたり、様々な悩みを抱えていた友人が、他国である私の話や考えを聴き、生きる希望もってくれたり、人と人の関わりを通して、様々な方との出逢い、関わりが大切であることに気づきました。

『みんな違ってみんないい』どんな環境にあっても、どんな境遇にあっても、一人一人を互いに大切に出来る世界になればいいと考えるようになりました。八洲学園大学国際高等学校には、この考えと似ている部分を感じ、私はとても過ごしやすく、充実した高校生活を送ることが出来ました。

卒業後はカナダの大学進学を予定しています。大学では、スポーツとビジネスを中心に学び、将来的にはスポーツトレーナーになりたいと考えています。海外でスポーツトレーナーとして働くこと、また日本で海外の方へスポーツトレーナーとして関わっていくことが私の目標です。

在校生の皆さん、自分の目標、やりたいことを見失わずに真っ直ぐに進んで下さい。



最後に、両親へ。

全日制高校を休学してアメリカ留学することを反対されていたけれど、自分のやりたいことを最後まで応援してくれた事、そして八洲学園大学国際高等学校への転校を認めてくれた事、ありがとうございました。

令和4年2月20日 卒業生代表 奥平 輝



新型コロナウイルス感染拡大の影響で、多くの催しが自粛される中、卒業式を迎えられますことを卒業生を代表して心より御礼申し上げます。また、お忙しい中、ご出席下さいましたご来賓の皆様、校長先生をはじめ、お世話になった先生方から感謝申し上げます。

私は高校に進学しましたが、学校に馴染めなかったのもあり、半年で退学しました。就職していた友達や先輩達の影響もあり、建築関係の仕事を始めました。当時の私には、肉体労働はとてきつく最初はいろんな職種を転々としてしました。慣れてくると、技術を身につけて成長するのがおもしろくなり、仕事を真面目に取り組みました。そして、19の時に結婚して二人の息子を授かることができました。妻が子育て、家事をしっかりとってくれていたおかげで仕事は順調で、独立することができ、小規模ですが、従業員を雇いながら仕事ができるようになりました。



その頃は仕事が忙しく、家庭のことは妻に任せっきりでした。独立してしばらくした頃、妻の病気が見つかりました。そして過酷な闘病生活が始まり、通院、入退院を繰り返し、私は以前のように仕事ができなくなりました。そして、私が八洲学園大学国際高校に入学する一年前に妻は亡くなりました。覚悟はしていたつもりでしたが、あまりにも早く、急な別れでした。法事や色々な手続きなどを終えて、日常生活に戻った私を待っていたのは寂しさと、多忙な日々でした。

家事、子育てはそれまで全くしてこなかったもので、とても手こずりました。フルタイムで仕事をして、慣れない家事をして身体もメンタルもボロボロでした。夜も眠れなくなり、食欲もなく、精神安定剤を飲みながら生活をしていました。悲しみと寂しさから、まだ気持ちを切り替えることができずにいました。



そんなボロボロになった私を救ってくれたのは息子達でした。息子達もとても寂しい思いをしていましたが、私の負担を少しでも減らすために、毎日家事を手伝ってくれました。私は一人ではなく子供たちがいてくれて本当に良かったです。子供達やサポートしてくれた人達のおかげもあり、体調も回復して、家事もこなせるようになってきました。

その頃私が考えるようになっていたことは勉強が嫌いな息子たちを私のように退学などさせず、進学させたいという思いでした。子供達には私が中卒ということは話していなかったので、少し後ろめたい気持ちもありました。ちょうどその頃、この八洲学園大学国際高校の存在を知り、説明会に行きました。子育てしながら働いて通っている同世代の人がたくさんいるということを知り、入学を決めました。

仕事、家事の合間にレポートをして、子供を預けて、一年に一回5泊6日のスクーリングに参加するのはとても大変でした。自分の子供と歳の近い子たちと同じ教室にいるのは、最初は抵抗がありました。でも八洲にいる人たちはみんなフレンドリーで歳の差はなんとも思わなくなりました。生徒それぞれ色々な理由で、全国から八洲を選んで入学してきます。それは自分のペースで高校生活を送れる環境が整っているからです。

20年ぶりの高校生活はとても貴重な経験ができました。今後の私の人生の糧となり、一生忘れることはありません。私は少し遠回りをしましたが、今日高校を卒業できます。それは八洲でなければ絶対に実現できなかったことです。ご指導いただいた先生方、本当にありがとうございました。

これから先、色々な壁にぶつかり、苦悩することも多々あると思います。私のように立ち直るのに時間がかかるような悲しい出来事もあるかもしれませんが、しかしどんな大きな壁にぶつかったとしても、私たちは乗り越えられるはずです。八洲で学んだことを思い出して、これから先どんなに辛いことがあっても最後まで諦めず、精一杯挑んでいきます。

私には、来月高校受験を控えた息子がいます。本当はこの卒業式に連れてきたかったのですが、本人の意思もあり、塾を優先させました。当時の私とは比べものにならないほどしっかりしていて、高校で学びたいこと、将来の夢がちゃんとあるようで嬉しく思います。志望校の倍率が高いですが、諦めず合格目指して頑張ってもらいたいです。色々な人達の協力で、私が八洲を卒業できたように今度は私が息子のサポートをしていきます。



最後になりましたが、私たち卒業生はたくさん人に支えられ、応援してくれた人達のおかげで、今日卒業式を迎えることができました。感謝の気持ちを忘れず、これから新たな道を歩んでいきます。そして今日、大勢の前で答辞を読む機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

令和4年2月20日 卒業生代表 比嘉 斉

